

住まいの飾り職人“アトムリビンテック株式会社”の広報誌 [アトムニュース]

ATOMNEWS

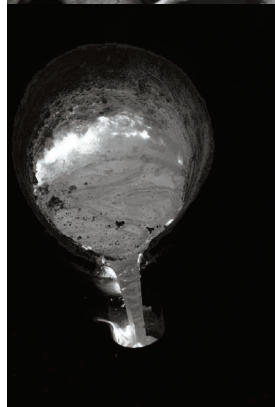
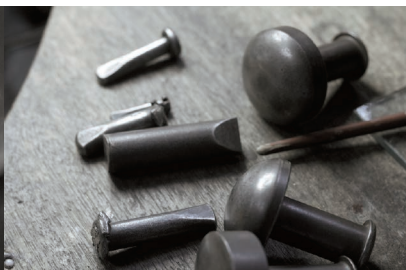
2018 WINTER

202





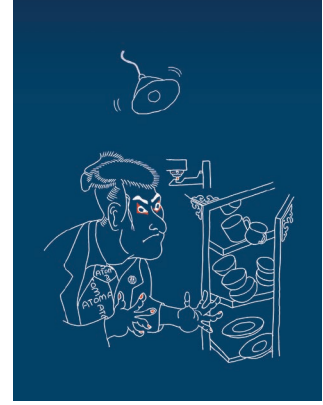

KANAGU
kanagu-store.com

- 3 アテナの道具箱 家具職人 武内 舞子さん
- 6 石の神さま仏さま おしゃれは大切
- 7 住まいのなかの機構としくみ 釘と金槌
- 9 CSタワー通信 特別展示「KANAGU つなぐ地域《福岡》」
- 10 Vegetable Atelier 島ニンジン
- 11 古今東西たてものがたり 京都市左京区 駒井家住宅
- 15 What is ATOM? 2018 秋の内覧会レポート
- 17 切手で巡る世界の旅 自然を見極めようとした人の静かな仕事部屋
- 18 オフタイムの過ごし方

今号の表紙

イラスト 写楽大首役者絵



写楽の作品は、役者絵の範疇を超えた破格の造形美で多くの人に深い感銘を与えている。役者の顔そのものを見つめ、そこにあらわれた個性や役者の年輪、そして役柄を加えてデフォルメしているのが写楽絵である。今号の表紙は耐震ロック金具。家具やキッチンの扉に取り付けるだけで、地震による収納物の飛び出しを防止できる「感震くん」と暗闇の写楽大首役者絵とした。



瀬谷 昌男 [Masao Seya]

東京都渋谷区原宿生まれ。浮世絵風のユニークで癒やし系の作品を生み出しているイラストレーター

読者プレゼント Present



● 若い衆シリーズ・木のお皿

「アテナの道具箱」に登場していただいた、家具職人・武内舞子さんによる「若い衆シリーズ・木のお皿」。

普通の木皿?と思いきや、こちら、実はフリーハンドで描いた円をかたどって作られています。そのため一つひとつの表情が異なり、並べてみるとまるで小さな子どもたちのよう。木目にもそれぞれ個性があるため、ふたつとして同じものはありません。

食器としてはもちろん、アクセサリ置きやひとつのインテリアとしても。ドライフラワーなどを添えても素敵です。きちっと形の整ったものも良いけれど、たまには少し不規則で、それでいてどこか心の和むプロダクトはいかがですか。

[サイズ] 約 170×170mm [材質] ウォールナット [販売価格] 8,000円+消費税

巻末のハガキ・FAXまたはホームページのアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で5名様にプレゼントいたします。

締め切り 2019年1月31日(木)

● 当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます

ギャラリーショップ KANAGU

職人・金属・手しごとをキーワードに、こだわりのアイテムを取り揃えています。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

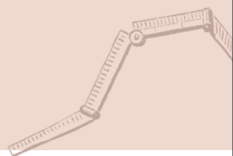
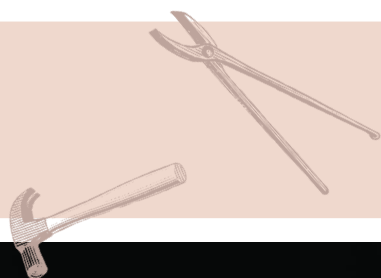




アテナの道具箱

ATHENA'S TOOL BOX

vol. VIII



— 家具職人の技 —

濃密な木の香りがした。

東京・武蔵村山市にある家具工房KOM A(コマ)の仕上げ部屋。椅子の荒取りを終え、フレームを組む。背もたれの「笠木」を刀で削り、鉋かんなをかける。無垢のウオールナット材が、たちまち滑らかな曲線を描き、柔らかさ、しなやかさを身にまとう。仕上げはサンドペーパー。木屑が霧のように舞いあがった。

椅子はKOM Aの親方・松岡茂樹氏デザインによる「シム・アーム・チェア」。家具職人・武内舞子さんは、その親方の椅子部門の一番弟子だ。KOM Aは「一点ものの作品のクオリティーと美しさを満たした製品づくり」がコンセプト。手仕事だけに「量産モデル」は同じ形をきっちりブレずに仕上げるのが難しい。

「私の仕事は親方がイメージしたものを忠実に再現する製品づくりに徹すること」そこに職人としての技が問われる。

— 衝撃の出会い —

曾祖父から四代つづく大工の家に生まれた。父の背中を見て育ち、幼いころは父の作業場が遊び場だった。見よう見まねで木を削り、釘を打った。木の匂いが好きだった。

「何かモノづくりをしたいと思っていたけ



木の声

家具職人

武内 舞子

MAIKO TAKEUCHI

1993年東京都生まれ。曾祖父から4代つづく大工の家系で育つ。東京都立八王子桑志高校クラフト分野卒業後、八王子現代家具工芸学校に入学。2013年アルバイトでKOM Aに入り、翌年正社員として入社。親方の椅子部門の一番弟子としての仕事のほか、マネジメント業務もこなす。趣味はバドミントンと料理とスノーボード。



「でも、大工になろうとは考えなかった」家ではなく、木をつかった身近にあるもの。「同じ木でつくるなら、家具職人になろう」。そう決め、高校卒業後は家具づくりの学校へ。基礎から技術を学び、課題で道具箱や椅子、テーブルをつくった。そんなときKOM Aの椅子に出合った。衝撃的だった。「デザイン、手触り、木目の美しさ、すべてカッコいい。どうやってつくっているんだろう、と気になって」椅子を撫でまわし、感触を味わった。

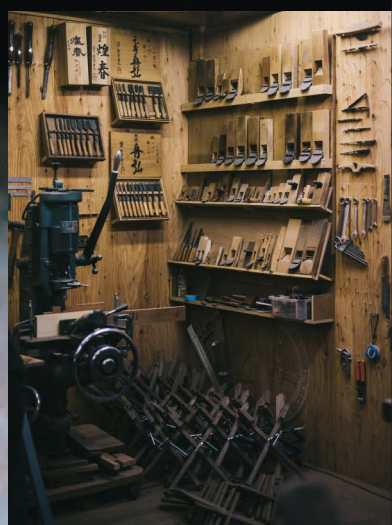
親方を紹介され、瞬間的に懂れた。

「まさに、ザ・職人という感じ」。縁がつながり、親方のもとでアルバイトをすることに。十九歳。運命の歯車がカチリと音をたてた。

— 木の声を聞く —

家具職人としての修業の毎日。最初は雑用係から。親方は仕事では口をきいてくれない。目も合わせない。

「相手にされるレベルじゃないんだな、と思った」。先輩たちの仕事を見て工程を覚え、少しずつペーパーがけやワックス塗りの作業に関わった。ところがある日、その先輩たちが突然いなくなつた。パツクレたのだ。彼らが担当していた椅子の仕上げをやらせてもらえるチャンスが来た。覚えたとおり笠木を刀で削り、鉋をか



けて曲線を出す。作業は素早く、繊細に。

親方の反応は「筋は、いいんじゃない」。

じつは密かに練習をしていた。運命の歯車が、また音をたてて回った。

だが職人の道は一本道ではない。失敗はつきもの。ちよつとだけ寸法が狂ったことも。「こんなゴミ、いらねえんだよ!」。怒鳴られて椅子が飛んできた。

木はそれぞれ個性が違う。同じウォールナット材でも、サクサク削れるものも削りにくいものもある。同じ手数で削れるとは限らない。ある人から「木と友達になりなさい」とアドバイスされた。

削りにくい木とぶつかつたら「頑固だなあ、おまえは…」そう話しかける。木の顔を見て、その声に耳を傾け、対話しながら仕上げていく。

— 女性目線の家具 —

お気に入りの道具がある。

中でも大切にしているのが、刃物で有

名な新潟県三条市の鍛冶職人に特注した

仕上げ用の刀。刃の長さにこだわり、持ちやすいように柄を削った。握ると手にしっくり馴染む。

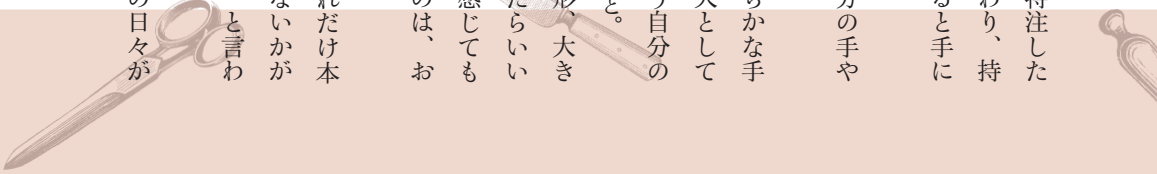
「作業に集中すると、まるで自分の手や指先になつたような感じがする」

目指すのは繊細なライン、柔らかな手触り、体のフィット感。家具職人としてのこれからの夢は、親方とは違う自分の「色」を持つた作品を生み出すこと。

「女性目線で、滑らかな曲線や形、大きさをデザインした家具をつくれたらいいな」。家族の一員のように愛着を感じてもらえる家具づくり。そこにあるのは、お客さんの笑顔だ。

初めて親方と出会つた日。「どれだけ本気か。それで、夢が叶うか叶わないかが決まる。おまえしだいなんだよ」と言われた。

その言葉をいまでも胸に、挑戦の日々がつづく。



和歌山県伊都郡高野町 高野山奥之院 地藏菩薩
おしゃれは大切



着飾ることは虚栄心？

それともお釈迦様が戒める

煩惱のひとつかしら。

けれども、自分をよく見せたいという

目標がなかったら、

人間、進歩が止まるわよね。

大切なのは、見える部分だけでなく、

中身のおしゃれも心がけること。

いつか誰かから花をもらう日が来るまで、

自分磨きはおこたりなく。

お寺や神社の境内の片隅や道すがらにひっそりと立つ、石の神さま・仏さま。時によっては、立派なお堂の中に祀られた国宝の仏像よりも力強く、何かを語りかけてくれます。

高野山奥之院 地藏菩薩 (和歌山県伊都郡高野町)

奥之院は高野山の中でもひとときわ神聖な場所で、弘法大師空海の御廟があります。と言っても、空海さんはまだ生きていて、こちらで瞑想なさっているとのこと。御廟の手前には歴代の戦国武将の墓が無数にあり、石仏もあちこちに。このお地藏さんは、いつ行ってもきれいに化粧をし、何かしら新しい衣装を身に着けています。

● 南海電鉄高野線高野山駅より南海りんかんバスで20分
「奥の院前」下車、徒歩20分



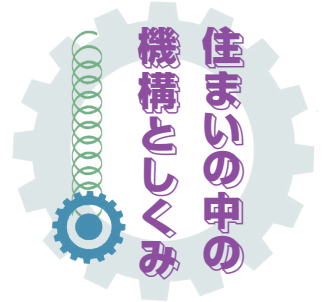
文・写真 吉田さらさ

寺と神社の旅研究家。日本各地に取材し、石の神様、仏様の像の写真を撮って「お言葉」を考えるのがライフワーク。『明日がちよっと幸せになる お地藏さまのことば』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)、『石仏・石の神を旅する』、『長崎の教会』(いずれもJTBパブリッシング)など、著書多数

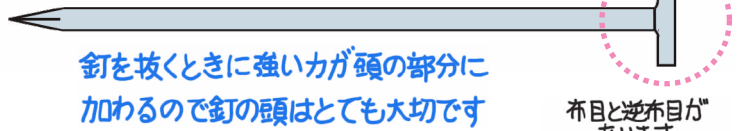
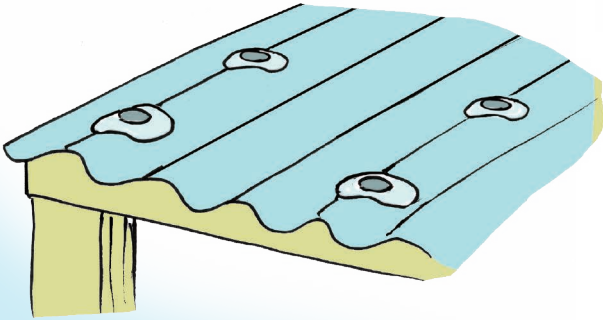
さまざまな現場でさりげなく使われているモノたちのしくみを知る

釘と金槌

最近の家庭で使われている道具のなかには、釘よりもネジの方が多く使われているとは思いませんか？ しかしやはり釘は木との相性がよく、多くの現場で今でも使われ続けています。



波板を釘で打ち付ける



布目と逆布目があります。

いろいろな釘頭



釘のしくみ

釘は木材どうしの接合や組み合わせ、その他の素材をつなぐために金槌で打ち付けて使われるものです。

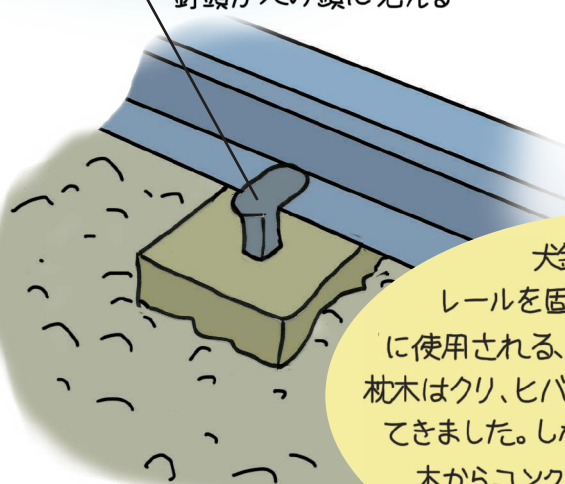
釘は昔から西洋では部屋の内装や、家具などを作る時に使われてきました。とくに、釘は鉄でつく金属を利用することにより、木材どうし、また金属を取り付けるのに最適な素材として現在まで使われ続けてきたのです。

釘は多くの場合、鉄でできているので打ち付けた後に乾燥が行き届いていないと、木材の内部で酸化して錆が発生しますが、適度の錆の場合、接合部が抜けにくくなるという利点もあります。しかし補修を必要とするときに抜くという難点も併せ持っています。そこで現在では鉄釘にメッキ加工を施したもののや、ステンレスの釘など、さまざまな金属も使われています。

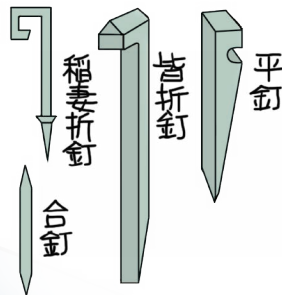


犬釘

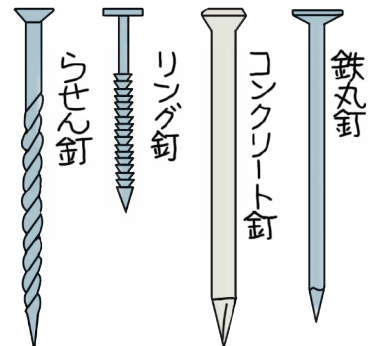
釘頭が犬の頭に見える



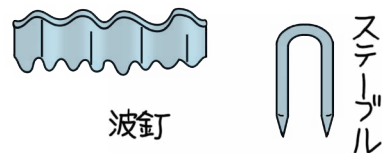
犬釘は木製枕木にレールを固定し抜けにくくするために使用される、四角い形状の釘です。枕木はクリ、ヒバ、カラマツ、ブナなどが使われてきました。しかし近年では、多くは木製の枕木からコンクリート製の枕木に変わっています。



和釘



洋釘



金槌について

釘が先か、それとも金槌が先か？議論があるとしたら、釘が先だと思えます。

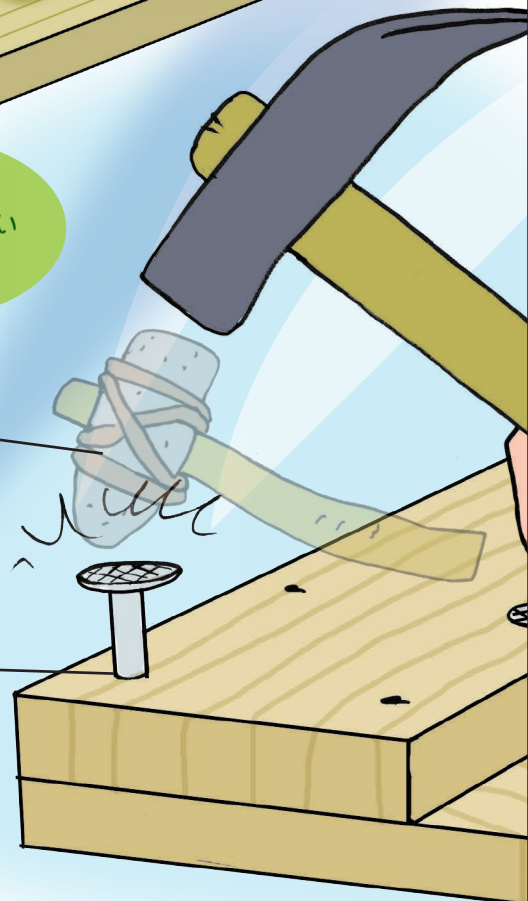
やがてその釘を効率よく打ち込むことができる道具として金槌が登場しました。金槌は振り下ろされた瞬間に、力学的にとても大きな力を釘の頭にかけることができます。そのおかげで釘を木などに打ち込むことができます。



釘を抜く部分でこの原理を使い釘を抜きます。

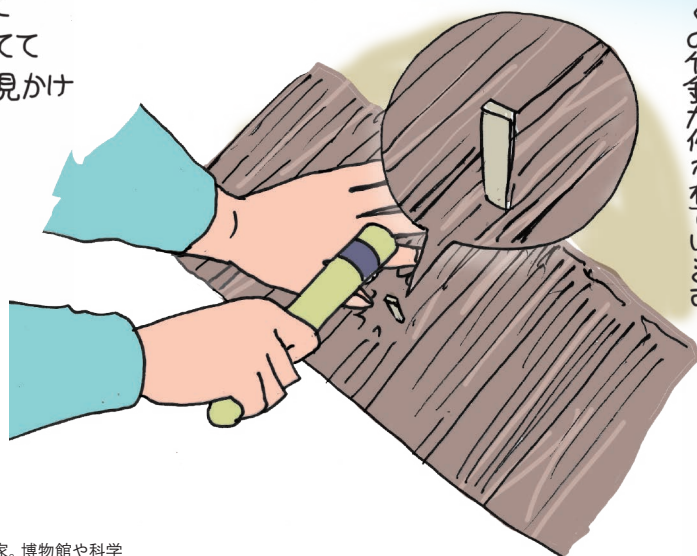
石器時代に釘はありませんが、木の実や硬い骨などを砕く打製石器などがありました。

釘が強い力で木材の内部に入ると、木材の反発力で釘は締め付けられます。



竹の釘について

日本では、寺社などの屋根を椀皮で葺くのに竹釘が使われてきました。椀の皮を竹釘で細かく打ち止めて、美しい屋根を作りあげています。竹釘は鉄の釘とは違い劣化するこゝとが少なく、日本古来の杵簀(こしらぎ)の屋根にも多くの竹釘が使われています。



1 気になる木のはなし

杉(スギ)

杉の話をする時、杉花粉を連想する人も多いかもしれませんが、もと私たちの家にはたくさん杉の柱や板が使われてきました。木の専門家に聞くと、杉の板を扱っていると「死に節」、「生き節」に出合うと言います。建材にする杉は成長過程で枝打ちしますが、このとき手を抜き、枝の根元を残したままにしておく欠点が多く残り、「死に節」となり、場合によっては節が抜け落ちてしまいます。ところが手間をかけ、上手に枝打ちすると、その後は成長とともに吸収され、「無節」、「生き節」となるそうです。木の成長に大切な枝との付き合い方しだいで、「人生の節目」も変わってくるのかもしれない。



監修 石塚典男(木香家)

今ではエアガンが金槌に代わりつつあります。



最近、住宅の建設現場をのぞいてみると「ガッガッ」と大きな音をたてて内装の壁に釘を打ち付ける光景を見かけます。金槌で打つよりエアガンの方が早いわけで、そうすると大工さんの工具箱から金槌がなくなるのも時間の問題かもしれませんね。



塩浦 信太郎

信太工房主宰/カラクリ作家。博物館や科学館へのカラクリの貸し出し、ホテルなどからのオーダーによる作品制作、ほかにデパート各店での展示販売などを行っている



ひ

とつの地域にスポットを当てて、魅力的な作り手さんやプロダクトをご紹介します。「KANAGU つなぐ地域」。今回は、九州は福岡にて活躍する作り手さんについて特集した特別展示を、10月18日から11月30日にかけて、アトムCSタワー1階「ギャラリーショップKANAGU」にて行いました。

Haori Cup — 奈須田、友也

光にかざすと、カップを持った指が透けて見えるほどの薄さが特徴的な、長崎県の波佐見焼。そこへ着物の羽織りのように、福岡の曲物をスリーブとして重ねることで完成するプロダクトです。熱々の飲み物を注いでも指先の温度を気にせず手に持つことができ、冷たい飲み物に用

特別展示「KANAGU つなぐ地域《福岡》」

いる際にも、水滴をスリーブが吸い取ってくれるため快適。伝統工芸×伝統工芸が実現したこのHaori Cup、温めるとほんのり杉の香りが漂ってきます。



Titanium Spoon For Ice Cream — 中村克昭

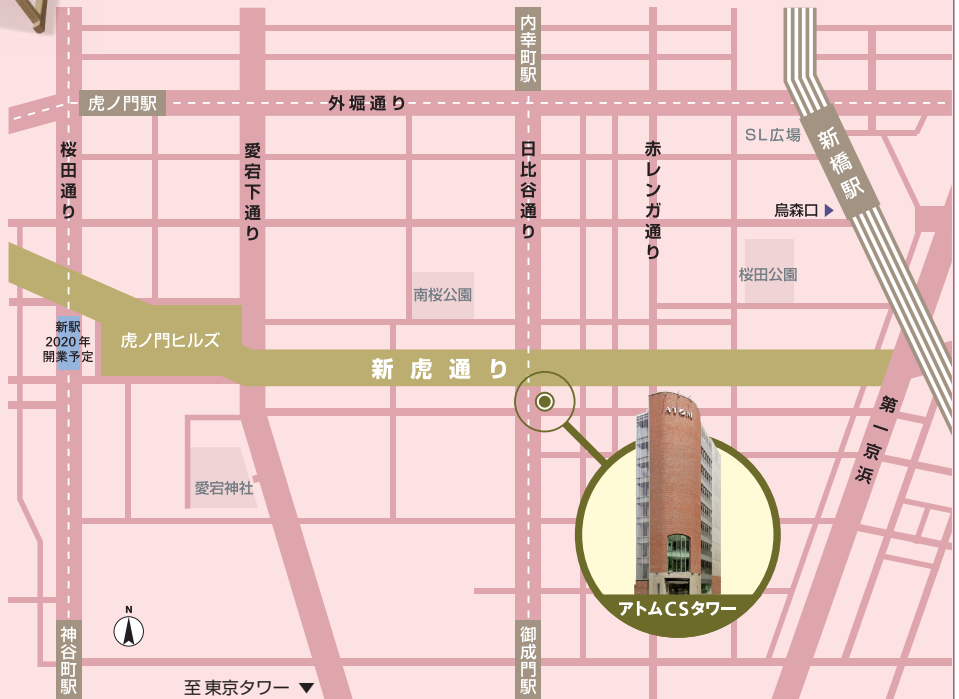
車のエンジンを作る際にも用いられる、世界最高の技術「RMAC-CREO」を応用して作られた、チタン製の最も贅沢なアイスクリームスプーン。耐食性、耐衝撃性、無毒性、生体適合性が高く、アレルギーフリー。そして、チタンは冷たいものとの凝着性が低いため、口に含んだアイスがスツと離れていくというのも特徴のひとつ。またその佇まい



も美しく、どんな食卓にも凛と涼やかな空気をもたらしてくれます。

UN Sung — 酒井航

どこか幾何学的な立ち姿が目玉を引くこのテーブルは、なんと宅配対応サイズにまで折りたたみが可能。元は、職人である酒井さん本人が、展示会の際に什器として用いるために制作したプロダクトでした。折りたたむ際も、広げる際も、計算しつくされた設計によりワンタッチで楽々。女性や年配の方でも生活に取り入れやすいテーブルです。木材はあえての無塗装。また木材を接合する金具には真鍮が用いられており、経年変化を楽しむことができます。



アトムCSタワー

東京都港区新橋 4-31-5 TEL.03(3437)7750

Open 月—金 10時—18時
Close 土・日・祝日(土曜営業日はHPをチェック)

JR・東京メトロ銀座線・都営浅草線「新橋駅」より徒歩8分
都営三田線「御成門駅」・「内幸町駅」より徒歩8分

photo by 吉田周平 文 島仲こすも

沖縄原産、島ニンジン。
鮮やかな黄色と長い形が
目を引きます。

食感はもちろんニンジンですが、
味や香りはトウモロコシ、もしくは
サツマイモのよう。

火を入れると、驚くほどの甘み。

ホイルを巻かずにオーブンに入れて、
250度で30分。

焦げ目がつくまで熱したら、

オリーブオイルと塩だけでどうぞ。

ポターージュにするのもおすすめ。

薄くスライスしたあとに、

じっくり煮込んでめしあがれ。

他の冬野菜と一緒に、ポトフにしても

おいしいですよ。

そんな島ニンジン、

50センチ以上に育つものもあります。

寒い冬、私たちが元気づけてくれる、
パワフルな野菜です。

南国出身の野菜ですが、
冬の料理にぴったりです。
島ニンジン。



クリタタカシ | 野菜農家「キレド」代表。サラリーマン時代に出会った「梨の
ような大根」に感銘を受け、農業の道に。現在は千葉県四街道市にて、年間
150種類以上の野菜を栽培している。「野菜の一生をみる」「レストランでしか
食べられないような野菜を、食卓にも」を基本理念として活動中。同県千葉市
には、とれたて野菜を味わうことのできる「キレドベジタブルアトリエ」も。

キレドベジタブルアトリエ
千葉県千葉市若葉区小倉台5-13-4-1F
www.kiredo.com



京都大学にほど近い北白川の閑静な住宅街。琵琶湖から引かれた白川疏水のほとりに瀟洒な洋館がある。京都帝国大学理学部の教授であった駒井卓博士の住まいである。

設計は、日本各地で数多くの西洋建築を手がけたアメリカ人建築家のウィリアム・メレル・ヴォーリズ。昭和初期における代表的な作品で、黒澤明監督の映画のシーンや、NHK連続テレビ小説『マッサン』のロケにも使われ、一九九八（平成十）年、京都市指定有形文化財に指定された。

スペイン風の洋館建築

清冽な疏水の流れにそって歩いていくと、木立の中に赤い屋根が見えた。

切妻屋根にスペイン風の民家を思わせる赤褐色の瓦屋根。半円形のスペイン瓦ではなく、日本の棧瓦せんがわが使われている。

建物の外観は、建築当時にアメリカで流行していたスパニッシュ様式である。

外壁は漆喰に骨材を混ぜたスタッコ仕上げ。門扉を開けてアプローチを進むと、玄関ドアの上部に設けられたアーチ状の花窓がスパニッシュな雰囲気을漂わせて迎えてくれる。京都北白川の駒井卓・静江夫妻の住宅である。

駒井氏は日本遺伝学会会長や東京帝国

大学教授、京都帝国大学理学部長などを歴任し、動物分類学や動物遺伝学に大きな功績を残した。また昭和天皇に生物学を教授した学者であり、遺伝学の権威として「日本のダーウィン」とも称された。

建築家としての円熟期

建物を設計したのは、アメリカ人建築家のウィリアム・メレル・ヴォーリズ。

コロラド大学の哲学科を卒業後、一九〇五（明治三十八）年にキリスト教宣教のために来日した。

来日後、英語教師などを経て、京都で建築設計事務所を開設。のちに国の重要文化財となった「神戸女学院」をはじめ、



庭に面した煉瓦造りのテラス。藤棚の緑がティータイムを快適に過ごす木陰をつくりだす



正面玄関の木製扉の上部にはスパニッシュらしい装飾が施されている



庭から眺めた駒井家。2階左端にあるサンルームは、建築当初はベランダであった。ここから大文字山を望むことができ、京都五山送り火には煤の匂いが届いたという

京都市左京区・駒井家住宅

取材・文 倉田ひさし 撮影 大垣善昭



日本の
ダーウィンが
暮らした
洋館



着物姿でも昇り降りしやすいように、ヴォーリスは階段を緩やかに、段差を低くデザインした。夕方には窓ガラスから射し込む陽の光で黄金色に染まる

日本各地で学校や教会、病院、住宅など、西洋建築の設計を数多く手がけた。そのかたわら讚美歌やカレッジソングの作詞作曲をしたり、ハモンドオルガンを日本に初めて紹介するなど、音楽に関する造詣も深かった。

ヴォーリスに設計を依頼したきっかけは、駒井氏の妻・静江夫人だったと考えられる。四国の丸亀教会の牧師の家に生まれた夫人は神戸女学院で学び、クリスチャンとしての活動に熱心に取り組んでいた。その夫人の女学院時代の同窓生が、ヴォーリスの妻となった女性だったのだ。そんな縁がつながり、アメリカ留学か

ら戻ったばかりの夫妻は、洋風のライフスタイルによる家づくりをめざした。留学中に見聞した住宅や家具、インテリアを参考にしたのである。木造二階建ての駒井家住宅は一九二七(昭和二)年に竣工。建築家として円熟期を迎えたヴォーリスの住宅建築の代表作のひとつとなった。

和と洋の融合を求めて

駒井家住宅で特徴的なのは、機能美にあふれた実用性と開放感である。

三連アーチ窓のあるサンルームや、各部屋の大きな窓からは柔らかな陽光が射

しこむ。各所に設けられた収納スペースは、住み心地や利便性を重視したもの。「和洋折衷」というより和と洋の融合に配慮した建築である。

玄関脇にある唯一の和室は、ふだん着物姿で過ごしていた夫人の希望に添えてつくられ、中央の畳をはずすと掘りごたつに。階段は着物でも昇り降りしやすいよう段差を低く抑え、手摺りの緩やかなカーブは、ハープのように美しいラインを描いている。

洋風建築においては、家族が集まる居間の中心に暖炉を設けるのがふつうだが、質素と堅実を重んじる夫妻の思いを尊重し、代わりに「だるまストーブ」が置かれた。食堂や居間で使われるテーブルや食器棚、ソファ脇の本棚は、夫人がカタログをもとにアメリカから取り寄せた。日常生活を豊かに彩るための、研ぎ澄まされたセンスがうかがわれる。

音楽とともにある生活

もともと北白川の地は、花畑や田園の広がるのどかな農村地帯であった。

夫妻はこの家で自然と共生し、潤いにみちた生活を営んだ。駒井家には学者仲間や大学の教え子たちが訪れ、議論の場となり、交流の場ともなった。親しい人々

アトムの視点



ご夫妻ふたりで住むにはぴったりなコンパクトなお宅ですが、スペースをより広くすっきり使うために、細かな工夫が随所に見られます。たとえば寝室には、余分なでっぱりをなくすように埋め込み式にした造り付けの和箆筒。ふだんは和装で過ごしていた静江夫人の着物などが収められていました。このほか洗面室の鏡の裏や、廊下の壁面、居間のソファの下などにも収納スペースが設けられています。そんな

中で真似したくなるような秀逸なアイデアは、玄関脇の廊下の幅木の部分にある隠し引き出しです。そっと開けてみると、靴磨き用セットなどの小物が入っていました。

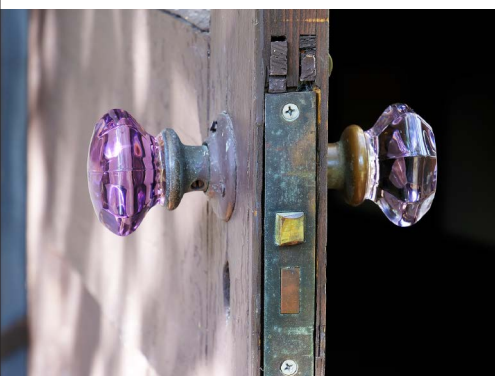




居間の東に面した窓には造り付けのソファがあり、その下には収納が設けられている。南側のサンルームと合わせて自然光をふんだんに取り入れることができる



駒井家にある唯一の和室。窓は2カ所とも出窓になっていて、内側に障子を入れ、外からは完全に洋館に見えるように納めてある。中央の畳をはずすと冬は掘りごたつになる



水晶のドアノブ。紫色はパブリックな空間に、無色透明はプライベート空間にと色分けされている



居間に置かれているドイツ製のピアノと手回し式の蓄音機。音楽を愛した駒井夫妻にとって憩いのひとときであった



食堂と居間の間にある折戸式になった間仕切り。居間と一体的に使用することも、独立して使うこともできる

が集まると庭でガーデンパーティーが開かれ、煉瓦造りのテラスではティータイムを楽しんだ。

その庭に面した居間には、ドイツの「リットミュラー社」のピアノが置かれている。鍵盤は象牙で、結婚祝いとして駒井氏が夫人に贈ったものだ。夫妻はともに音楽を愛し、夫人は母校の神戸女学院で英語や音楽を教えていたこともあった。

ピアノの横には、手回し式の蓄音機。多くのレコードコレクションの中でも、ベートーヴェンの「交響曲第五番（運命）」や、チャイコフスキー「交響曲第六番（悲愴）」が駒井氏の愛聴盤であった。蓄音機はいまも古き良き時代の音を奏でられる。

夫妻で過ごす、のどかで笑顔があふれた暮らし。晩年は連れだって疎水沿いを散策するのが日課だったという。

一九七二（昭和四十七）年、駒井氏が亡くなり、その翌年、あとを追うように夫人が世を去った。その後、住宅は保養所や研修所として利用されたのち、当時の（財）日本ナショナルトラストへ寄贈され、修理・修復を経て一般公開され、かつての状態に戻されている。

耳をすませば、駒井夫妻の温もりのあふる暮らしの息づかいが聞こえてくるようだ。

INFORMATION

駒井家住宅（駒井卓・静江記念館）

- 所在地：京都府京都市左京区北白川伊織町64 ● TEL. 075-724-3115（公開日のみ）
- 公開：毎週金曜日・土曜日 10:00～16:00（入館は15:00まで）
- 休館日：原則として7月第3週～8月末、12月第3週～2月末
- 入館料：大人500円 中学生・高校生200円 小学生以下・無料（保護者同伴のこと）
*団体見学（10名以上）は、事前に予約が必要
- 交通：鉄 道 叡山電鉄「茶山」駅より徒歩7分
市バス 3番 上終町ゆき「伊織町」より徒歩2分
5番 岩倉操車場ゆき「上終町京都造形芸大前」より徒歩4分
204番 錦林車庫ゆき「伊織町」より徒歩2分
- 管理・運営：公益財団法人日本ナショナルトラスト



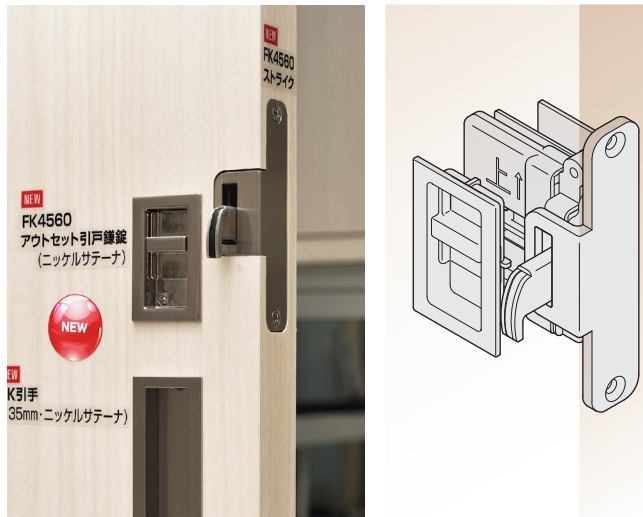
2階にある書斎。机は西側に面し、窓からは疎水の桜並木が眺められる。造り付けの本棚には、論文や著作、遺伝学の専門書がならぶ

NEW

アウトセット引戸錠錠 [FK4560]

高まるリフォームニーズに対応！お部屋や収納の引戸を指1本で施錠・開錠できるアウトセットの錠錠です。

アウトセット引戸の戸先に設置できる錠錠。リフォーム需要の高まりのなかで、アウトセット引戸用の錠錠が欲しいという要望に応じて開発された商品です。操作つまみを上下させるだけでスムーズに施錠や開錠が可能。シルバーと黒の2色があり、バックセットは45～60mmの範囲で自由に設定することができます。

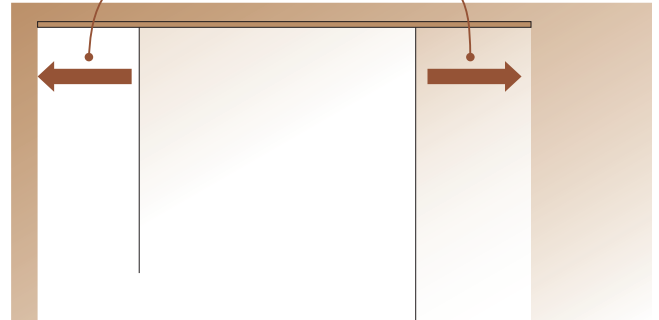


NEW

2wayソフトクローズ戸袋対応

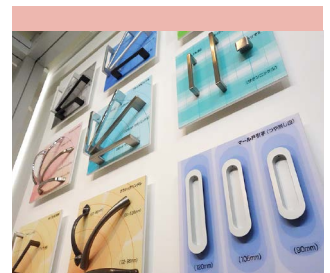
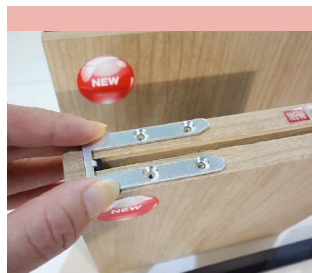
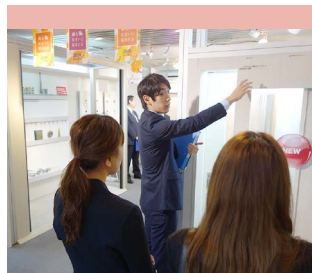
これひとつで戸先・戸尻どちらでもソフトクローズが作動！2本のダンパーを一体化することでコストパフォーマンスも向上。戸先側だけでなく、戸尻側にもダブルでソフトクローズが効く新しいタイプです。これまでは両側にソフトクローズを設置する場合、ダンパーが2本必要でしたが、新商品はダンパーをひとつにして一体化することでコストダウンに成功。これによって、戸幅が狭くても2wayでソフトクローズできるメリットを実現しました。

1本で戸先側・戸尻側の両方向にソフトクローズ



大阪会場

アトム住まいの金物ギャラリー大阪



NEW

3連引戸ダブルオープン

セーフティストッパーとフランス落としの
組み合わせで間仕切りの自由度アップ!!

さまざまなシチュエーションに使用できる3連引戸です。従来は、戸先側の扉からの出入りに限られましたが、今回の商品は中央の扉をフランス落として固定すると、戸尻側からの出入りも可能なダブルオープン仕様に。引戸を開閉するだけの操作で、室内を「間仕切る」ことや「開放する」ことが簡単に実現できます。

動画はこちらから
スマートフォンで
ご覧いただけます



ダブルオープン



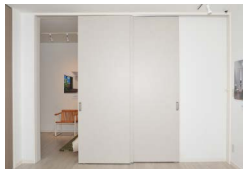
クローズ



開放



セーフティストッパー



戸先側オープン



戸尻側オープン



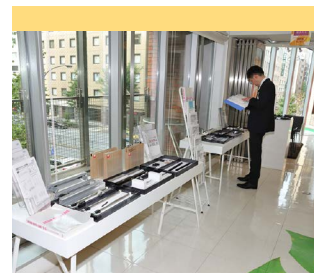
フランス落とし

2018 秋の内覧会 レポート

去る10月、大阪と東京でアトムリビントック「2018 秋の内覧会」が開催されました。品揃え豊富な引戸ソフトクローズや連動引戸・折戸金具に加え、空間を有効に活用できる移動間仕切り金具などの施工例をご覧いただきました。東京会場では、高齢者向け施設の居室や、幼稚園・保育園などの園舎の室内をイメージした「非住宅エリア」と、住宅の間取りをイメージした「LIVIN' ZONE」を設置して、実際の住空間に近い状態で提案商品を展示。さらに5階の展示スペースを拡張してご覧いただきました。



東京会場
アトムCSタワー



ご来場くださいましたお客様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



1840年の誕生以来、世界中で発行されている切手。

その単片には各国の文化や自然、知と美の世界があふれています。

切手という小さな窓を開いて、一緒に世界を旅してみませんか？

ビュフォン伯の仕事部屋を描く2013年発行のフランス切手。切手のタブ(シートの余白)にはビュフォン伯の似顔絵が描かれている



自然を見極めようとした人の静かな仕事部屋

著名人のプライベートを覗くのは、なかなか大変なことです。切手があれば、それも簡単です。

今号の1枚はフランスの博物学者として知られるビュフォン伯(1707-1788)の仕事部屋を描いた切手。

彼はこの部屋にこもって、36巻にもわたる壮大な『博物誌』を書き上げました。大理石の暖炉とニュートンの胸像、そして壁には『博物誌』の挿絵画家マルティネが描いた鳥の素描がたくさん飾られており、当時の雰囲気を感じていきます。

彼の仕事部屋は、現在、ビュフォン博物館内で公開されているので、もしフランス・ブルゴーニュ地方の小さな町モンバルに行くことがあれば立ち寄ってみてください。自然を深く愛したビュフォン伯の情熱に触れることができるかもしれません。



文 馬場 千枝 | フリーランスライター。切手愛好家。

Facebook上で「なでしこ切手倶楽部」を主宰。「かわいい、楽しい、美しい切手やおたよりで癒やされたい、あそびたい人たちの集う場」を提供している。

著書「切手女子のかわいい収集BOOK」(PHP研究所) 他 <https://nadeshiko2018.jimdo.com/>

読者の声

「アテナの道具箱」毎回楽しみにしています。道具とモノと人が織りなす物語にワクワクします。桐製のサーフボードが「KIRI DANCE」という名前だなんて最高ですね。(大阪府 S・M様 女性)

熱海での食事のあと2度起雲閣を訪れました。大正時代の風を感じながらの庭園散歩は好きなひとときです。今回の記事拝読後、また訪れたいくなりました。(神奈川県 S・S様 女性)

元遊郭の建物に興味があります。元遊郭の建物が旅館として使われている所が全国にあるようなので、取り上げてほしいです。(香川県 あやたぬ様 女性)

「住まいに役立つ仲間たち」は、日舞の師匠をしているので踊りの中での住まいや住まい方の今・昔を教えるのに大変役立っています!!(福岡県 YUSHIRO様 女性)

今、自社の事務所を建て替えています、引込戸をはじめ採用してみました。頭の中では理解していたのですが、取り付けて利用してみて「目からウロコ」でした。(長野県 スズケン様 男性)

手づくりボードのお話、興味深く読ませていただきました。ひとつの乗り物としてのサーフボードへのこだわりを通して、良いモノを作り続ければ誰かが評価してくれて、色々なチャンスにめぐりあえるモノづくりの素晴らしさがよく分かる良い記事でした。(東京都 K・T様 男性)

201号において記載に誤りがありました

P7「住まいに役立つ仲間たち」のページ下部イラスト「屋根は家の帽子」内誤 日本家屋の本瓦の屋根
正 日本家屋の日本瓦の屋根
お詫び申し上げますとともに、ここに訂正いたします。

編集後記

「自宅のポストに手紙が入っているとうれしいじゃないですか!」今号よりスタートした「切手で巡る世界の旅」の馬場千枝さんが、笑顔で楽しそうにお話しされるのを伺っていた時に、最後に手紙を書いたのはいつだったのか、ふと考えてしまいました。毎日のようにメッセージを書いたり、受け取ったりしていますが、それはパソコンや携帯電話でのやり取りばかり。レターセットやポストカードを選んで、文をしたため、切手を選び、貼ってポストに入れる。メールやSNSのスピードを考えれば、時間はかかりますが、そういった手間暇が手紙の魅力がかもしれませんね。かといって急には筆まめにはなれないので、まずは年賀状に一言メッセージを添えることからですね。(うり坊)

INFORMATION

「日経IR・投資フェア 2018」に出展しました

8月31日(金)・9月1日(土)の2日間、東京ビッグサイトで開催された日本経済新聞社主催の「日経IR・投資フェア2018」に出展いたしました。会期中は、当社出展ブースならびに会場別会社説明会にたくさんの方にお越しいただき、誠にありがとうございました。



管理部 経理課 安田 晃章
経理業務を担当

今回、私の好きな場所のひとつ、本社からも近い上野公園内にある、「博物館・美術館」についてご紹介いたします。どちらの施設も、入館料がお手頃で気軽に楽しめ、子どもと一緒に出かけのにもちょうどいいことから、たまに見学に訪れております。

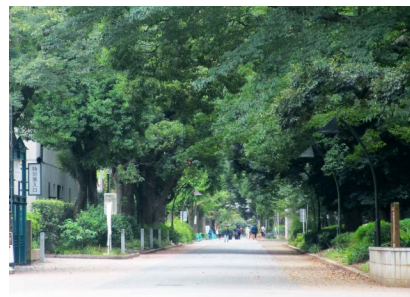
まずは、「国立科学博物館」ですが、ここには、日本が現代に至るまで歩んできた歴史を振り返ることができる「日本館」と、生物の進化の過程や科学についての展示を見学できる「地球館」のふたつの常設展があります。どちらも展示物が豊富で、ポリウムがありますので、訪れた時は、どちらか片方のみ見学することになっています。なお、日本館の建物は重要文化財にも指定されており、建物だけでも訪れる価値があると思います。

展示物の説明書きなどを読みながら、ゆっくり

見学していますが、見どころが多く、出口に向かう頃には、最初に見たものは遙か昔のことのように感じられ、動物のはく製や恐竜の化石など、インパクトのあるものしか記憶に残っておりません。知的な時間を過ごしたような気分になり、満足しております。

続いて、こちらも重要文化財で世界遺産にも登録された「国立西洋美術館」ですが、ここには、画家のピカソ、ゴッホ、モネなどの絵画が展示されており、作品数も豊富で、しかも常設展は比較的すいていますので、ゆっくり鑑賞することができます。また、館内には休憩用の椅子とともに解説本が置かれていますので、私のような素人でも充分楽しむことができます。

いずれも、貴重な展示物を気軽に見学することができる素晴らしい施設のひとつです。



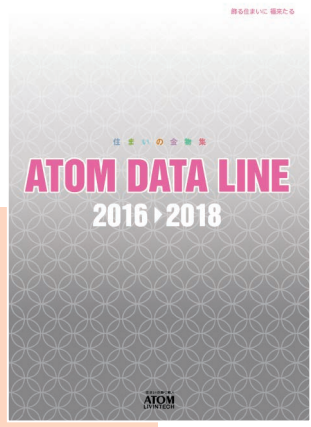
上野公園・博物館前の通り

個人情報の取り扱いについて

読者プレゼントにご応募いただいた皆さまの個人情報は、プレゼント発送のほか、商品情報や弊社個展の招待状等の発送に利用させていただく場合がございます。これらの発送停止をご希望される場合には、速やかに対応いたします。詳しくは弊社HPのプライバシーポリシーをご覧ください。



住まいの金物、取りそろえました。



www.atomlt.com/catalog/

住まいの飾り職人

ATOM LIVINTECH アトムリビンテック株式会社

- 本社 / 〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL.03-3876-0600 (代表)
- 特販事業部 TEL.03-3876-0603 FAX.03-3876-8833
- 卸売事業部 TEL.03-3876-0602 FAX.03-3876-4435
- アトムCSタワー / 〒105-0004 東京都港区新橋4-31-5
- アーバンスタイル事業部 TEL.03-3437-3673 FAX.03-3437-3565
- 亜吐夢金物館 TEL.03-3437-3440 FAX.03-3437-3565

- アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所 / 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18-5
TEL.06-6821-7281 FAX.06-6821-7282
- 札幌営業所 / 〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東三丁目28-32 井門札幌東ビル1F
TEL.011-748-3113 FAX.011-753-3015
- 前橋営業所 / 〒371-0805 群馬県前橋市南町3-72-7
TEL.027-223-2651 FAX.027-223-2661
- 広島営業所 / 〒733-0031 広島県広島市西区観音町16-9 みさおビル1F
TEL.082-291-4235 FAX.082-291-4880



www.atomlt.com